

## ★自分自身が、家族が、進行がんと診断されたらどうされますか？



「治療は？」「生活は？」家族のこと、自分のこと、これからどう過ごしていけるだろうと悩み、落ち込みます。

医療生協では、10年以上前から「緩和ケア学習会」を積み重ね、取り組んできました。

がんと告げられたあとの精神的援助やこれからの療養についての援助、症状・痛みのコントロールなどを行いながら、その方の希望に寄り添い、その人らしく過ごせるようにお手伝いをしています。

悪性腫瘍(がん)の終末期を自宅で過ごす方も増えてきていますが、病院で最期を迎える方が多いのが現状です。今回は病棟や外来の紹介をします。

外来・クリニックでは、ご本人の希望を第一に、いつもの生活を送りながらどのようにしたら治療を続けられるか、ご家族と医療者側などもみんな一緒に話し合いながら考えます。看護師は患者さんが納得しているか？何に困っているか？どんな援助が必要かを考え、栄養士、薬剤師、リハビリスタッフ、医療相談員などの協力を得ながら安心して療養を続けられるようにアドバイスします。外来受診時は症状を聞きながら痛みやつらさを軽減できるように援助します。

在宅担当責任者

外来看護師

訪問看護師

病棟主治医

医療相談員

ヘルパー

往診担当看護師

ケアマネジャー

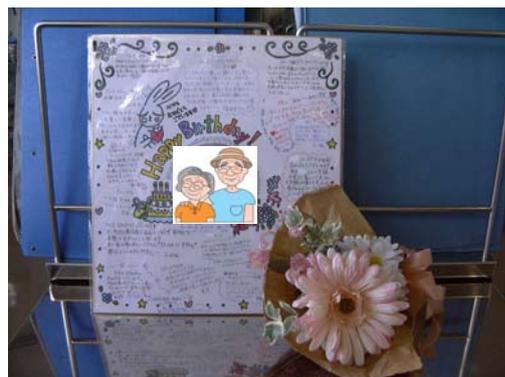
(写真・退院前に担当の職員が患者さんのこれからの過ごし方を相談します)

入院治療が必要な人、自宅での生活が困難になった方々は本人の希望を優先しながら入院することになります。

では入院生活はどうでしょうか。

治療や生活のサポートはもちろん、本人や家族の不安・これからの希望を十分に聞き一緒に悩み考えます。痛みやつらさを和らげるように工夫します。また、できる限り、家庭に近い環境を作れるように配慮します。

たとえば、盆栽をお部屋にいれ毎日手入れをしていた方、愛着のある家具を持ってこられた方、主治医の許可のもとではありますが、家族が毎日好物を持ってこられる方、状況にもよりますが、大切なペットの面会がかなうこともありました。他にも季節を感じられるようにお花見、天神祭りの化け物の訪問、七夕、クリスマスと行事を行ってきました。冬は雪だるまが見たいという希望の方に窓越しに雪だるまが見えるように作ったこともありました。



誕生日を病棟のスタッフ、家族とともに祝ったり、食べやすい食事を工夫したりと病室ではありますが自宅にいるような配慮やご家族との時間を有意義にすごせるようにしています。

このような時期の患者様には、できるだけ個室で過ごしていただけるように配慮していますが、もち

ろん、差額ベット料金はいただいております。

何かご希望や気付いたことがありましたら遠慮なく職員に声をかけて下さい。

- 鶴岡協立病院 電話 0235-23-6060(代表)
- 鶴岡協立附属クリニック 電話 0235-28-1830(代表)

